一般質問の質問者順番と質問事項

（令和８年　第４回定例会）

質問順位	４　　２番 議員　　水　田　志　保	
質問事項１	中山間地域における鳥獣被害対策の充実について	
質問の要旨	近年、イノシシなどによる農作物への被害に加え、中山間地域に隣接する住宅の庭や町道が掘り起こされるなど、住民の生活環境にも影響が及んでいる。また、農業従事者の高齢化や担い手不足が進む中、鳥獣害防止柵の設置や維持管理の負担、耕作放棄地や荒廃農地の増加など、個人や地域だけでは対応が難しい課題も懸念される。 本町では、近隣自治体と連携した鳥獣被害防止計画に基づく取組に加え、防止柵の整備や捕獲班の設置、狩猟免許の取得を支援する独自の補助制度を設けている。 先般、鹿児島県東串良町を行政視察し、地域住民が協力して取り組む鳥獣被害対策や、行政と地域が連携した捕獲・防除の取組について学び、地域ぐるみで対策を進めることの重要性を改めて感じた。 農地の保全と住民の安全・安心な暮らしを守るため、既存の支援制度の活用状況や地域の実情を踏まえ、今後の鳥獣被害対策を更に充実させる必要があると考え質問する。	
具体的な質問 及　び 質問の相手	（１）　鳥獣被害の現状と課題について ア　中山間地域における鳥獣による農作物被害の現状と推移をどのように把握しているか イ　鳥獣被害による営農意欲の低下や、耕作放棄地・荒廃農地への影響をどのように認識しているか示せ	町　長
	（２）　鳥獣害防止柵の整備と捕獲体制について ア　防止柵の設置状況と、維持管理における課題は何か示せ イ　捕獲体制の現状と、捕獲に携わる人材の確保や育成について、今後どのように取り組む考えか示せ	町　長
	（３）　住宅周辺や町道への被害について ア　中山間地域に隣接する住宅の敷地や町道におけるイノシシの出没・被害について、町はどのように把握し、対応しているか示せ イ　農地被害に対する支援や、関係部署が連携した被害防止・再発防止対策について、どのように考えているか示せ	町　長
	（４）　地域ぐるみの鳥獣被害対策について	町　長

	ア　鳥栖三養基地域鳥獣被害防止計画に基づく広域連携の取組状況と、これまでの成果や課題について示せ イ　町独自の補助制度の活用状況を踏まえ、農業者や地域住民の負担を軽減し、地域ぐるみの被害防止対策を今後どのように進めていく考えか示せ	

一般質問の質問者順番と質問事項

（令和８年　第４回定例会）

質問順位	４　　２番議員　　水田　志保	
質問事項２	火災予防と地域防災体制の充実について	
質問の要旨	火災や災害から住民の生命と財産を守るためには、日頃からの備えと、地域の消防・防災体制の充実が重要である。本年度の調査では、本町の住宅用火災警報器の設置率は 50%、条例適合率は 36%と、全国及び佐賀県平均を大きく下回っており、更なる普及啓発が求められる。 また、消防団の再編については、団員の減少や高齢化などを踏まえ、地域の消防力を維持しながら、団員や地域の理解を得て進めることが大切である。特に、再編後の格納庫や消防車の取扱いなど、現場の団員が安心して活動を続けられる体制づくりが求められる。 さらに、11 月 15 日に実施された町の防災訓練では、対象地域の住民参加について考える機会となった。災害時に地域で助け合えるよう、日頃から住民が防災に関心を持ち、訓練に参加しやすい環境づくりも重要と考える。 火災予防の推進と、住民や消防団員の声を大切にした地域防災体制の充実に向け、町の考えを問う。	
具体的な質問及び質問の相手	（１）　住宅用火災警報器の設置促進について ア　本町の住宅用火災警報器の設置率及び条例適合率の現状をどのように認識しているか示せ イ　設置率向上に向け、管轄の消防事務組合や地域の関係団体と連携した普及啓発、設置支援をどのように進めていく考えか示せ	町　長
	（２）　消防団再編計画について ア　消防団第５部と第９部の再編に向けた進捗状況と、第２部・第３部の今後の再編方針について示せ イ　再編後の格納庫の配置や消防車の運用について、地域の消防力を維持するため、どのように検討しているか示せ ウ　第２部・第３部の合同会議で出された団員の意見や、今後予定されている区長との協議を踏まえ、再編計画をどのように進めていく考えか示せ	町　長
	（３）　防災訓練への住民参加について ア　地域住民の参加状況と課題をどのように捉えているか イ　今後、住民が参加しやすい訓練の実施や、地域の防災意識を高める取組をどのように進めていく考	町　長

	えか示せ	